

看護師育成制度の夜明けとともに —ラオスとカンボジアの看護リーダーたちとの仕事を通して—

国立国際医療研究センター 国際医療協力局

人材開発部研修課 看護師 虎頭 恭子

Lancet誌が、日本の保健師の保健医療システムにおける重要な役割について、隠れた秘密として言及していました⁽¹⁾。世界で、日本の保健師の活躍が認識されるのは、嬉しいことですが、その発展は日本の保健衛生と看護制度の歴史と深い関係があり



写真1 カンボジアの公立病院で看護過程の指導を行うブリッジコース修了生

ます。

保健師による活動は昭和初期から、アメリカで公衆衛生看護を学んだ保良せき氏らによる公衆衛生訪問看護婦協会による家庭訪問といった、家庭保護を中心としたものから開始されました⁽²⁾。戦後、GHQによって勧められた医療福祉政策改革では、公衆衛生福祉局の看護課長にオルト少佐をおき、その基に数名の米国人ナースのグループが派遣されました。彼女たちは、都道府県にも配置され、日本側の看護行政を担当する都道府県看護課長に直接指導しました。その中には、保健師の駐在制を指導し、看護の力を発揮する仕組みを地域に導入したと評価される、ワニタ・ワータワース氏も含まれます^(3,4)。その一方で、政府資金やロックフェラー財団のような民間財団の支援で、日本人看護リーダーたちが留学し、看護制度や教育の改正を牽引する人材が育成されました⁽²⁾。バージニア・オルソン博士は、GHQ任務終了後も、ロックフェラー財団の看護コンサルタントとして、多くの日本人看護師の留学を支援しました⁽²⁾。彼女に関する著書には、「泣く子も黙るGHQ」の立場にあったときから、日本人看護リーダーたちに寄り添い、良い関係を築こうとしていたオルソン博士の姿勢に関して記述されています⁽⁵⁾。

保健師という資格はなくとも、看護の力を地域に発揮する仕組みは、保健人材の数が不足している低中所得国においても求められます。今年、世界保健機関西太平洋事務局が発行した、将来に向けた保健人材フレームワークでは、看護職がユニバーサルヘルスカバレッジ達成のための中核として機能する



写真2 ラオス国で初の看護師助産師国家試験

ことが特筆されています⁽⁶⁾。1974年、プライマリーヘルスケアという概念が、アルマ・アタ宣言で採択された時の世界保健機関事務局長であったハルクダン・マーラー博士は、その当時にも、看護職が地域の中でリーダーシップを発揮することを期待されていました。様々な状況が変化して50年経った今も、同様に期待されている役割なのです。

カンボジアやラオスでは、看護学校の教員や臨床のリーダーたちが、4年制の看護教育を隣国のタイで学び直す機会が、1990年代初頭から、日本やタイ政府開発資金およびWHOの支援で行われてきました⁽⁷⁾。その卒業生から、修士課程や博士課程に進んでいるものもあり、著者は、彼らと一緒に働く機会を得ることができました。

1年半の留学から帰国したカンボジア人ナースたちは、看護師がプロフェッショナルとして、教員としての姿勢・臨地実習での教員の役割・看護技術だけでなく一人の人をケアする看護過程を使ったサービスを提供することを学び、それらを自分たちの職場にも取り入れたいと目を輝かせていました。帰国当初は、周りの理解を得られず苦労していましたが、4～6年近く経過すると、各自看護部や看護師長、教務主任といった責任ある立場に昇進し、施設全体の看護教育の向上に取り組み、周りからも認め

られる存在に成長していました⁽⁸⁾。また、修了生の有志たちは、勤務時間外の夜間や休日に集まり、自分たちの学びを継続したり、一緒に困難を乗り越えたりできるネットワークを設立できるよう熱心に語り合っていました。そんな彼らの熱意を少しでもサポートできればと、知り合いから募金を募り、年に2回のワークショップを開催し続け、2019年にカンボジア看護協会が設立されました。コロナ中もオンラインでのワークショップを継続し、現在は継続教育提供の中心的な役割を担っていると聞いております。国際看護師協会（ICN）への登録も次の目標に掲げ、昨年の総会前の各国代表者会議には、私も国際理事として参加する機会を頂きました。

昨年末まで駐在したラオスでは、国家免許導入のための制度づくり支援に関わりました。ラオスでは2005年以降、継続的に看護人材育成に対するJICAの支援が続いていますが、その3代目に相当する技術協力プロジェクトでした。2008年に初めて看護助産規則が策定された当時からラオス看護リーダーを牽引しているペンディ氏によると、看護助産規則の上位法は憲法のみで、何を規則に含むべきか全くわからず、技術支援に来られた日本人専門家より、「ラオスの看護は夜明け前」と言われたことを何度も繰り返していました。それから、着々と国内外に

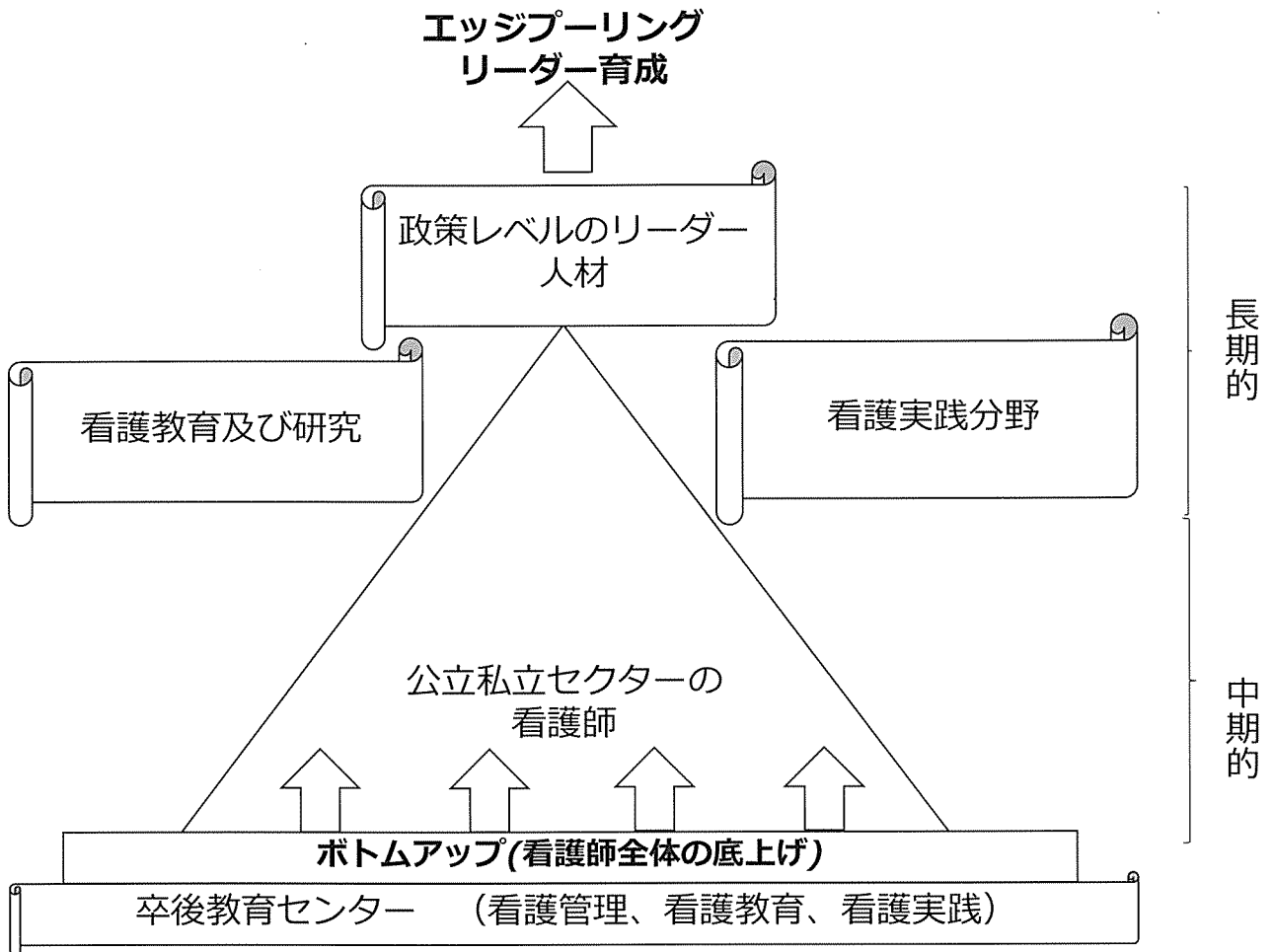


図1 筆者らが提唱する、中低所得国における看護人材育成モデル

においてリーダー人材が育成され、「自分たちは小さい国だが、行政・教育・臨床にいるリーダーたちが看護ケアの質を向上するという皆同じ方向に向かっている」と語るほど、連帯意識が強いのが特徴です⁽⁹⁾。2020年、初の国家試験が行われ、今年初めて外部の支援なく自分たちで実施しました。これは、質のある医療を届ける保健人材を育てる仕組みの一環としての取り組みです。そして、現在、ラオス人看護リーダーの要請によって看護開発計画策定が開始し、NCGM国際医療協力局看護師チームは、その技術支援を行うことになっています。

第2代看護課長の金子光氏は、「GHQで聞かされた『看護はプロフェッショナルである』ということばは当時は真新しいものであったが、専門職業として高い誇りを持てるものになるとの力強いはげまとなった」と著書の中で述べています⁽¹⁰⁾。カンボジアやラオスにおいた経験を基に、著者らは低中所得国における看護人材モデルを提唱しています。看護リーダーたちが看護職をプロフェッショナルとし

て育成することを目的とした看護師育成制度を進める時代の夜明けに、一仲間として関わらせて頂く機会を得られたのは、とても光栄なことですし、きっと日本の戦後に関わった米国人ナースたちも同じような気持ちで取り組んでおられたのではないかと、思いを馳せます。

引用・参考文献

- (1) Horton R. Offlie: Japan's hidden secret. The Lancet. 2024; 403 (10444) : 2578.
- (2) 川島みどり他編.日本の看護のあゆみ 歴史をつくるあなたへ. 日本看護協会出版会、2014.
- (3) 清水嘉与子他編. 保健師助産師看護師法60年史, 保健師助産師看護師法60年史. 日本看護協会出版会、2009.
- (4) 大嶺千代子. 報告 占領期に行われた保健婦駐在の制度比較に関する私的考察. 沖縄県立看護大学紀要第2号. 2001; 2 : 108-116.
- (5) 大石杉乃. バージニア・オルソン物語～日本の看護のために生きたアメリカ人女性～. 原書房、

2004.161ページ

- (6) World Health Organization. Regional Framework to Shape a Health Workforce for the Future of the Western Pacific. Manila: WHO Western Pacific Regional Publications; 2024. https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/376704/9789290620488-eng.pdf?sequence=1&isAllowed=y&fbclid=IwZXh0bgNhZW0CMTAAR0p4mlyJ2nTiIc9SgXcPVWNz1aI-Lp4_QTqnEj6ppYTHQs5Cgdf1WNLScs_aem_tjFzGvhRodwsh2wuo2-zaw
- (7) 国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局, テクニカル・レポート Vol 11, カンボジア・ラオス・ベトナム・ミャンマーにおける看護人材開発制度とASEAN相互互認証協定 (MRA), 2018. (http://kyokuhp.ncgm.go.jp/library/tech_doc/2018/Technical_Report_11_light.pdf)
- (8) Koto-Shimada, K. Fujita, N., Matsuoka, S. *et al.* Medium-term outcomes of a program to upgrade the nursing faculty in Cambodia: A qualitative study. *Nurse Education Today*. 2022; 116:105438.
- (9) Koto-Shimada, K., Miyazaki, K., Inthapanith, P. *et al.* International cooperation for nursing human resource development in Lao PDR: Investing in nursing leadership. *GHM*. 2023;31:5(4) : 249-254.
- (10) 金子光. 看護の将来像 医学書院、1969.100ページ

